

第5学年 道徳学習指導案

1 主 題 精一杯に生きる (D-19 生命の尊重)

2 教 材 「命のアサガオ」*「5年生の道徳」文溪堂

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

生命は、人間が自分たちで作ったり、生み出したりできないものである。そんな生命のかけがえのなさに気付く、生命あるものを慈しみ、畏れ、敬い、尊ぶ気持ちを育むと共に、自他の生命の尊さや生きることのすばらしさの内面的自覚を図っていかねばならない。

生命のかけがえのなさを自覚させるためには、人間の誕生の喜びや死の重さ、生きることの尊さ、共に生きることの素晴らしさなどを考え、自他の生命を尊重し力強く生き抜こうとする心を育て、生命に対する畏敬の念をもたせることが大切である。

そこで、本時は実話を用いて「生と死」を見つめさせるとともに、生きることの喜びやよりよく生きることの意味を考えさせることを通して、自他の生命を尊重する気持ちを高めていきたい。

教材に登場する丹後光祐君は、元気でどこにでもいるような子であった。しかし5歳の春、白血病を発症し入院、苦しい治療に耐え、いったんは退院し、小学校に入学したが、夏休みになり再入院してしまい、7才という短い生涯を閉じた。この主人公が精一杯に生きていた姿を教材から読み取らせることにより、光祐君の人生が輝きに満ちていたことに気付かせたい。また、小学校1年生の少年の死という重い事実は、子どもたちの心を揺さぶり、命を失った深い悲しみに共感し、生きることの大切さについて、改めて考えることができる教材である。

(2) 子どもの実態について

昨年度、二分の一成入式において、これまで自分の成長を見守ってくれた親の思いや愛情を知り、自分が親にとっていかに大切であったかを強く実感することができた。更に今年度は、養護教諭から命の誕生について学んだことにより、自分の存在価値を再認識することができた。また、成長していく自分に期待したり、将来の夢や希望を考えたりする子も増えてきた。しかし、命の大切さについて十分理解できていない子が多いのが現状である。例えば交通規則を守らず事故に遭いそうになったり、危険な遊びを平気でしたりという様子から何うことができる。命はかけがえのない尊いものだということを再認識させたい。

4 本時の構想

(1) 本時のねらい

かけがえのない命を大切にし、精一杯に生きようとする心情を育てる。

(2) ねらいにせまる手立て

7年という短い人生を死に直面しながらも現実から逃げず、死ぬ間際に母親に謝った理由を考えることで「精一杯に生きる」ことについて考えを広めさせていきたい。

(3) 本時の展開

展開	学習活動	指導上の留意点(下線:ねらいにせまる手立て)
気 付 く	1 小学1年生の頃の自分の様子を想起する。 ○ 1年生の頃に、何をしていましたか。 ・勉強をしていた ・毎日遊んでいた ・ドッジボールをよくしていた ・ゲームをしていた 2 本教材に出てくる人物について把握する。	・小学1年生だった主人公と自分を重ね合わせ、感情を移入させる。 ・この教材は実話であることを伝え、主人公である小学1年生の光祐君の生き方について

5分	<ul style="list-style-type: none"> ・実話であること ・1年生でとても元気な男の子 ・病気になり、入退院を繰り返す ・男の子は亡くなってしまう 	<p>て考えることを知らせる。</p>
さ ぐ	<p>3 教材の話を聞き、内容把握をする。</p> <p>(1) 病気になって初めて涙を見せた時の主人公の気持ちを考える。</p> <p>○ こうすけ君はなぜ、なみだが出たのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早く家に帰りたい・注射が痛いから ・髪の毛が抜けたから ・みんなと遊びたいから ・自分だけ病気になっているから <p>(2) 「もうすぐ死ぬのかな」と言ったときの主人公の気持ちを考える。</p> <p>○ こうすけ君はなぜ、「もうすぐ死ぬのかな」と言ったのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こんなにも入院しても治らないから ・なまずのこしひかりが死んだから ・ちっともよくなならないから ・また病院に戻らないといけないから ・もっと生きたいと思っていた ・ぜったい死にたくないと思っていた <p>(3) 主人公が、お母さんに謝った理由について考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業者は語りで授業を進めて、キーワードや挿入絵を提示して授業を展開することで内容を具体的に把握させる。 ・治療の大変さや入院生活の不自由さに気付かせる。 ・光祐君の表情や小さな声でつぶやいたことに着目させて主人公の気持ちに迫らせる。 ・病気の治療のために必死でがんばってきたことに気付かせる。 ・ペアで、話し合い活動をさせる。
る 35分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px auto; width: fit-content;"> なぜ、こうすけ君は、お母さんにあやまったのだろう。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・心配をかけてごめん ・今までありがとう ・病気ばかりでごめん ・お母さんより先に死んでごめん ・泣かしてごめん <p>(4) お母さんが、アサガオの種を配った理由を考える。</p> <p>○ お母さんは、なぜアサガオの種をこうすけ君と同じ病気を救うために配り始めたのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じ病気の人を救いたい ・こうすけ君が育てたアサガオが色々な所に広まって欲しい ・アサガオをこうすけ君だと思っている <p>(5) 主人公かその母親へ手紙を書く。</p> <p>○ こうすけ君かお母さんに向けて手紙を書きましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のことだけでなく母を気遣う優しさに<u>気付かせる。</u> ・<u>七年という短さで生涯を終えるという彼の心残り、のこされた者たちの無念さも想像させる。</u> ・自分の考えをもたせてから、グループでの話し合い活動をさせ、全体発表へとつなげる。 ・光祐君が生前アサガオの花が咲くのを楽しみにしていたことを想起させる。 ・「命をつないでいく」意味に気付かせ、アサガオがその象徴だということを捉えさせたい。 ・<u>7年という短い生涯を精一杯に生きた光祐君や母親に向けて手紙を書かせることで生きるといふことについて考えさせる。</u>

